

がんサバイバー時代における 歯科医師の役割

The Evolving Role of Dentists in the Era of
Cancer Survivorship

丸山哲昇

Tessho MARUYAMA

キーワード：がんサバイバー、口腔がん、
重複がん、早期発見



(まるやま・てっしょう)
ICDフェロー
琉球大学病院 放射線科

近年、がん治療の進歩によって、がんサバイバーは確実に増えている。私たち歯科医師も、日常診療の中でがん既往を有する患者に接する機会が以前より増えたように感じる。

重複がんそのものは以前から知られている。しかし、多くの研究は二次がんを対象としており、三次がん以上についてはあまり注目されてこなかった。われわれは米国SEERデータベースを用いて解析を行い、全がん登録数の約4～5%が三次がん以上 (higher-order multiple primary cancers) に該当することを報告した (図1)。また、重複がんは全身の様々な臓器に発生し、そのリスクは初発がんから10年以上経過した後も持続していた。口腔がんは、三次がん以上としても比較的高頻度に認められた。

口腔がん診療では、field cancerizationという考え方がよく知られている。もちろん重要な概念である。しかし、がんサバイバーが増えた現在、私たちが注意を払うべきなのは頭頸部領域のがん患者だけではない。全身のさまざまな部位のがんサバイバーに対して、重複がんとしての口腔がんの早期発見に貢献する必要がある。

歯科医師の大きな強みは、口腔という臓器を日常的に観察できることにある。口腔は体内にありながら直接診察できる数少ない部位である。口を開けてもらうだけで広範囲の粘膜を観察でき、早期の段階で、がんをはじめとするさまざまな疾患を発見できる可能性も

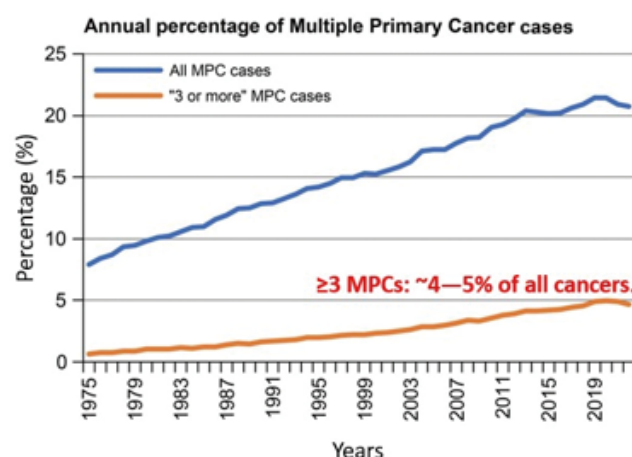


図1 米国SEERデータベースにおける重複がんの内訳
MPC: multiple primary cancer (重複がん)

Maruyamaら (Preventive Medicine Reports, 2026; 68: 103517) より転載

ある。実際に、歯科受診時の粘膜観察を契機として口腔がんが発見される症例も少なくない。そのため私は、がん既往のある患者では、口腔内全体を入念に診察するよう心掛けている。ほんの数分の診察かもしれないが、その積み重ねが患者の予後に影響することもあるだろう。

最近ではオーラルフレイルや口腔機能低下症への関心も高まり、歯科医療は「治療する医療」から「支える医療」へと少しずつ変わってきている。超高齢社会を迎えた現在、歯科医療に求められる役割も大きく変化している。疾患を治療するだけでなく、歯や口腔機能を長く維持し、健康寿命の延伸に貢献することが重要になってきた。口腔ケアや口腔機能管理、医科歯科連

携の重要性もますます高まっている。歯科医師は口腔がんの早期発見だけでなく、糖尿病や高血圧症などの慢性疾患を含めた健康管理にも関わることができる。

歯科医師は歯だけを診る職業ではない。口腔という窓を通して全身の健康を見守る職業である。がんサバイバー時代を迎えた今、その役割はこれまで以上に大きくなっていると感じている。

私たちICDメンバーには、それぞれの立場から社会に貢献できる力がある。日々の診療を通じた地域医療への貢献はもちろん、教育や研究、学術活動もまた重要な社会貢献の一つである。私自身も研究活動や学術活動を通じて新たな知見を発信し、歯科医療の発展と社会への還元に貢献していきたいと考えている。